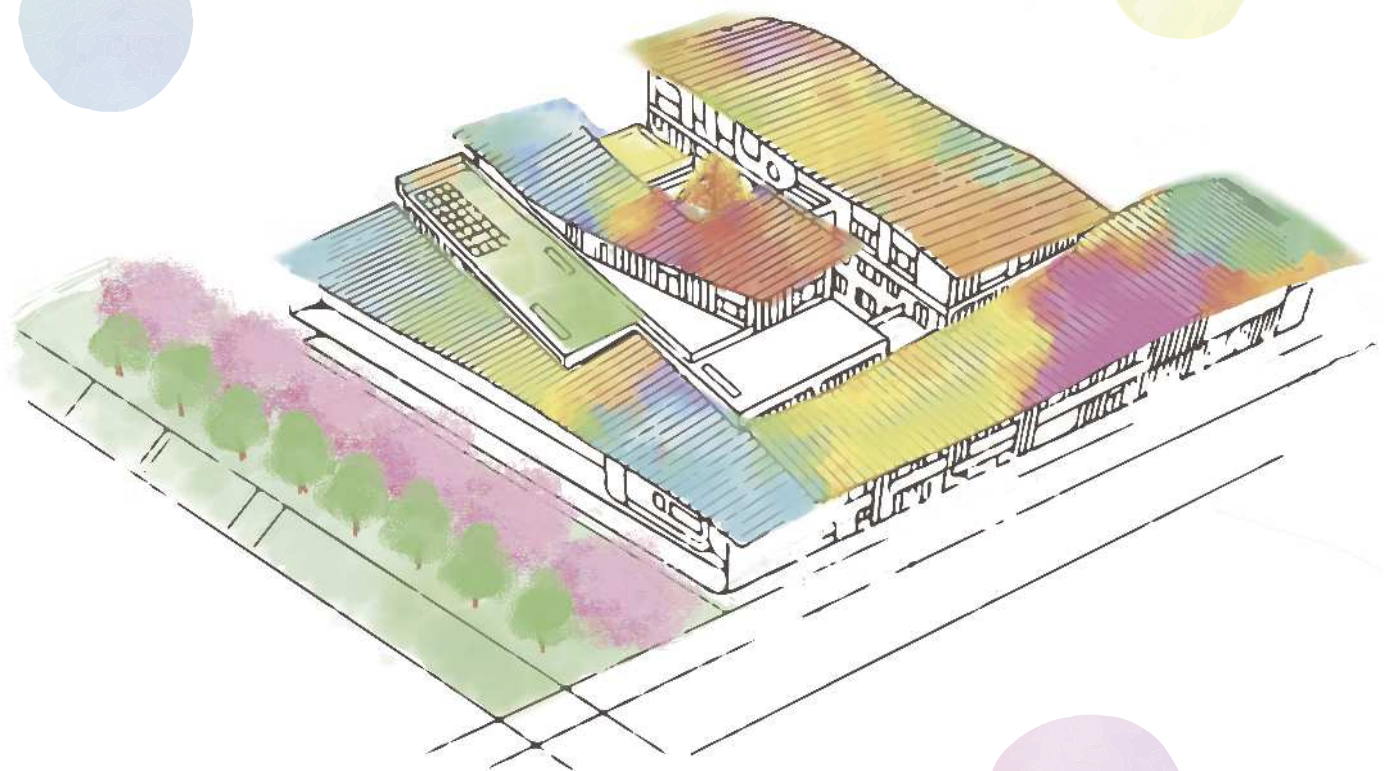


美術工芸高校グランドビジョン

令和5年度移転開校「京都市立美術工芸高等学校」の教育構想



- 01: 『美術工芸高校』の創設に向けて
- 02: 教育構想策定の背景
- 03: ありたい姿
- 04: 施設概要
- 05: 社会に開かれた教育課程の実現に向けた教育活動
- 06: 中核となる教育活動
- 07: グランドビジョン懇談会の実施概要
- 08: 学校概要

令和4年5月策定
美術工芸高校開設準備室

01: 『美術工芸高校』の創設に向けて

スクールメッセージ

その「わくわく」が、 ありたい未来をソウゾウする。

何気なく暮らす日常の中。たとえば、本を読んだとき、話をしたとき、空を見あげたとき。そんな、自分以外のなにかとつながった「とき」に、私たちは様々な「感情」を抱きます。好きとか、楽しいとか、美しいとか…。

そして、そんな「感情」を言葉として捉える前の、ハッとした瞬間に感じるココロの「ゆらぎ」。この生まれたての「ゆらぎ」は、自分のココロの中で大切に積み重ねることで輝きを放ち、やがて、「わくわく」に成長します。この「わくわく」は、社会に新たな問いを生み人のココロを豊かにする「美術」という営みの源泉であり、皆さんが未来に歩みを進める原動力です。

15歳で、美術の道を歩もうとする皆さんは、表現をすることが「好き」な人たちだと思います。でも、「好き」なことは、必ずしも楽しいことばかりではありません。学びの過程や完成した作品を前に、自分の不甲斐なさに涙することもあります。そんなとき、大きな支えになってくれるのは、同じ志をもつ仲間の存在です。

美工は、そんな仲間と出会える学びの場です。また、皆さんと同じ経験をしてきた教員がそばにいます。「好き」なことを通して自分ととことん向き合い、ここで出会った仲間と切磋琢磨しながら、ともに高め合っていく。そして、「美術」を通して、正解のない問いに試行錯誤しながらも挑戦し続けていく。その先に、皆さんの思い描く未来が切り拓かれていきます。

これから予測困難な社会を迎えるといわれています。そんな社会で生きていくために大切なこと。それは美術を学んだ者の強みである「想像」と「創造」です。「想像」とは、なにかを思い描くこと。「創造」とは、なにかを生み出すこと。この2つのソウゾウは、人のココロを動かし、未来に新しい価値をつくりだします。

美工で学んだ生徒には、「わくわく」という、いきいきとした感情を、好きな美術を通して輝かせ、いくつになっても、自分の思い描く未来をソウゾウしていく。そんな人に育ってほしいと願っています。

移転の意義・目的

京都市立銅駝美術工芸高等学校（以下、「銅駝美工」という。）は、明治13年に日本初の公立美術学校として創設された「京都府画学校」を起源とし、開校以来140年以上にわたり、幾多の校名・校地の変遷を遂げながら、国内外の芸術界や産業界で活躍する人々を輩出するなど、日本のみならず世界の文化芸術の発展に貢献してきました。そして、令和5年度には、校名を「京都市立美術工芸高等学校」（以下、「美工」という。）に改称し、同じ起源を持つ京都市立芸術大学（以下、「京都芸大」という。）とともに、京都駅東部の崇仁地域に移転する予定です。

本市として、京都芸大・銅駝美工の移転整備事業は、文化庁の全面的移転を控え、京都駅周辺の魅力あるまちづくりを更に推進するとともに、「世界の文化都市・京都」としての都市格の向上や、文化による社会・経済の活性化、高等学校と大学を一体的に整備することで、文化芸術の創造の拠点としての機能をより一層高めていくことを目指しています。

「美術工芸高校グランドビジョン」の位置づけ

京都市立高校においては、生徒の個に応じた多様な教育活動の展開や、生徒の選択にも対応できるよう、普通科はもとより、探究や工学、芸術などの多彩な専門学科を設置し、将来様々な分野の担い手の育成を図ってきました。令和5年度の銅駝美工の移転は、新しい普通科教育を展開する市立開建高校の創設とともに、平成11年度の市立堀川高校の探究科改革を皮切りとした市立高校改革の「総仕上げ」として位置付けています。銅駝美工は、開校以来、美術専門教育を中心に、関係諸機関や地域等と連携を深めながら、常に時代の状況や生徒の特性、社会からの要請等に的確に応じる不断の改革を行うことで、市民の信託に応える学校づくりに取り組んできました。

こうした中、今回の移転を機に、移転先が京都の玄関口に位置し、京都芸大と隣接するなどの恵まれた環境を最大限生かし、時代を先導する新たな美術工芸高校として更なる飛躍ができるよう、その指針となる「美術工芸高校グランドビジョン」を策定しました。

「京都にある美術専門高校であること」そして、「京都に美術専門高校があること」。この「グランドビジョン」には、これらの意義を踏まえ、美工が新しい地にしっかりと根付き、未来に向けて成長し続け、その存在が人々に力を与え、50年後、100年後も、愛され続ける学校にしたい、という思いを込めました。ここで掲げた美工が果たすべき使命や教育理念・目標などの学校構想の実現に向け、様々な特色ある教育活動を力強く計画的に推進してまいります。

「美工」が果たすべき使命

京都にある美術専門高校である意義、そして、京都に美術専門高校が存在する意義を踏まえ、美工の社会的意義や役割を再定義しました。次の3つの「つくる」の実現に向け、学校構想の具現化を図っています。

「美」をつくる

京都の都市特性を活かした美術専門高校ならではの豊かな学びを実践し、一人ひとりが創造性を発揮して美をつくる学校

「文化」をつくる

美術を通して身につけた力で、新たな文化や価値を創造し、次代を切り拓く青年を輩出し続け、「文化芸術都市・京都」の発展に貢献する学校

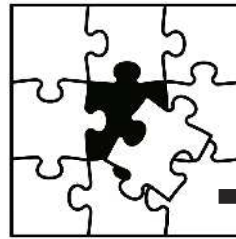
「景色」をつくる

歴史と伝統を踏まえながら、時代の変化と教育ニーズに対応した先進的な教育を展開し、全国の美術教育に新たな景色をつくる学校

02: 教育構想策定の背景

予測困難な社会が到来している

グローバル化や技術革新により、私たちを取り巻く環境は急速に変化し続けており、人口問題や気候変動、パンデミックや国際社会の不安定化など、私たちが向き合わねばならない問題も複雑化・多様化しています。原因と結果が一義的に対応しているわけではなく、将来の予測が困難な社会においては、どこかに存在している唯一の正解に早くたどり着くことが求められてきたような既存の価値観だけでは通用せず、まだどこにも存在しない新たな答えを自ら創り出していくことが求められるとされています。また、科学技術の進歩によってこれまで人間の担ってきた仕事の多くが AI に代替されていくことも指摘されています。私たち一人ひとりがどのように生きていくのか、社会においてどのような役割を果たしていくべきか、その在り方が大きく変化しようとしている時代です。



唯一の「正解」を早く
見つける時代から



まだどこにも存在しない新
たな答えを創り出す時代に

「モノ」から「ココロ」へ

身近な生活に目を向けると、インターネットの普及による急速な情報化や技術革新による生産性の飛躍的な向上は、私たちの日常生活を大きく変化させてきました。物質的な豊かさが満たされる一方で、安らぎや潤いが求められるようになり、「ココロ」の豊かさについて考えるべき状況になってきています。また、近年のコロナ禍において対面でのコミュニケーションが制限される中で、人と人とのつながりの大切さについても、改めてその重要性が認識されることになりました。

これからの社会におけるアートの役割

こうした社会において、アートはどのような意味を持ち、何ができるのでしょうか。

アートには感情を大きく揺さぶり動かす力、文字通り「感動」を生み出す力があります。人と人をつなぎ人々の「ココロ」に潤いや豊かさをもたらすアートやその担い手の重要性は、ますます高まっていくと考えています。

また、アートが生み出す対話を通じて自分だけでは気づけなかったひらめきやアイデアを得ることは、時代を乗り越えていく知恵や行動力の発揮につながっていくはずで、同時に、他者とのつながりだけでなく、作品を通じた自己との対話によって自らを見つめ直し、新たな自分自身と出会うことも、成長への大事なプロセスになるのではないのでしょうか。さらに、あらゆる領域とつながることができるアートの力や発想は、今、様々な分野に必要とされています。アートを手がかりにして、学びを広げたり深めたりしていくこともできます。

こうした中、作品制作を中心とした学びを通して知識や技術を習得し、芸術家をはじめとする美術・工芸の世界で活躍できる担い手の育成とともに、普遍性や発展性をもったアートをグローバルな視点で学び、世界の中の「一人」として生きていくために必要な力を培うという、より広い視野に立った美術教育も求められています。

世の中は「わからない」ことで溢れています。その「わからなさ」と向き合い、挑み続け、新たな問いや答えを導き出していくうえで、アートには大きな可能性があります。自分の感覚や世界観に基づいて、他者と対話しながら「ありたい姿」を想像 (imagination) し、それを未来に向けて創造 (Creation) するという力、この2つの「ソウゾウ」をする力はきわめて人間的な力であり、特にアートを学んだ者にとっては大きな強みとなるものです。まさに、未来はアートに託されていると言えるでしょう。



■ 美工作の学校改革の基本的な考え

このような社会情勢の下、アートの重要性やアートを学ぶ意義が高まっていることを踏まえ、新たな学校構想の検討を進め、美工作の学校改革の基本的な考え方を次のとおり決めました。

美術「を」学ぶから 美術「で」学ぶ学校へ

美術の知識や技能を学ぶだけでなく、美術専門教育を軸に、教科・科目・専攻を横断した教育の展開や、大学・産業・地域・海外の教育機関などと連携した教育活動を推進し、美術を通して広く社会に貢献できる創造性豊かな自立した青年の育成につなげる。

－ グランドビジョン懇談会でのご意見 －

学校構想の検討を進める中で、令和2年度に設置した「グランドビジョン懇談会（詳細は P13 参照）」の委員等からいただいたご意見。

○ 幅広いインプットや思考が表現を多様にする

幅広い教養や日常的な観察、自分以外の世界観に出会うなど、インプットの力を育むことが、多様で豊かなアウトプットに繋がっていく。／思想や哲学など、高校生が思考する機会は重要である。

○ 京都の資産を活かす

京都の資産である伝統産業との繋がりを通して、ものづくりの文化的な物語性（ストーリー）と精神性（スピリッツ）から学ぶ取組は重要である。

○ キャリアをひろげる

美術を学んだことの強みは、将来作家だけでなく、幅広い分野で力を発揮する。／ものをつくるだけでなく、ものを語る力を培い、ストーリーテラーの育成に繋げてほしい。

○ 年少の世代と交流する

年少の世代との交流を通して、高校段階の常識や感覚を一旦崩す仕掛けは重要である。／高校生の作品を地元の子どもたちが鑑賞できる機会を設定してほしい。

○ 好きなことで生きていく

平均的に力を培っていくのではなく、「強み」を更に伸ばしてほしい。／様々なことに挑戦し、高校時代に失敗する経験をするの大切さを学ばせてほしい。／移転先の立地を活かし、生徒の作品等をもっと世に問う機会を設けるなど、真剣勝負させることが重要である。

03: 美工のありたい姿

生徒や保護者・地域の方々、また、未来に向けて、美工の確固たる理念と目標、そして、どんな学校で、どんな生徒を育てるのかななどを、ここに約束し、宣言します。

教育理念

自由快活な校風のもとで 多様性を尊重しともに高め合い
美の精神をもって広く社会に貢献できる高い理想をもった 創造性豊かな自立した青年を育成する

教育目標

- ◆多様なものごとに触れ 美しさや本質を見出す「**感じる心**」を豊かにする
- ◆主体的に取り組み 広い視野で柔軟に深く思考できる「**考える力**」を伸ばす
- ◆幅広い美術の知識や技能を学び自分の思いや考えを形にする「**表現する力**」を高める

目指す学校像

「美」で未来への希望を創る学校

世界には様々な「美」が存在します。高校生活における学びの中で、生徒たちがそれぞれにとっての「美」とは何かを考え、自分なりの「美」に対する感覚や考え方、手法を身につけていけるような学びの場であるとともに、その様々な「美」によって未来に向けた「希望」を創造していけるような学校を目指します。

育てる生徒像

しなやかに、新たな自分を描く人へ

美術がもつ「つくる」という営み。これを重視した3年間の日々の活動や学びを通じて、今まで知らなかった 或いは気づけなかった「自分」と向き合い、他者との対話を通して新たな「自分」、そして「世界/未来」を描いていく。同時に、将来の予測困難な社会において、広い視野で、変化に対応する柔軟性を持つ人。そんな人を3年間通して育成します。

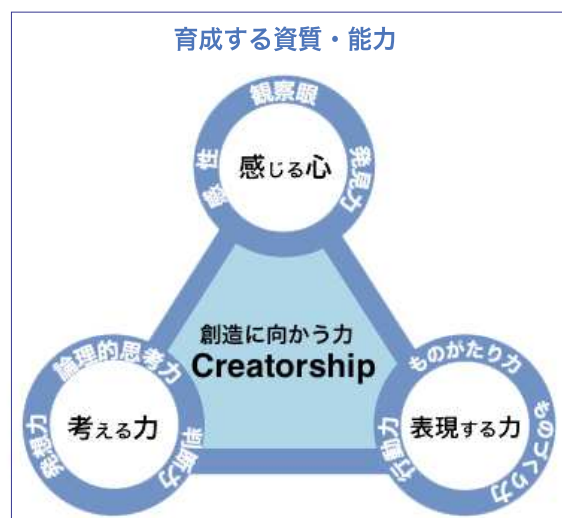
育成する資質・能力

教育目標の「感じる心」「考える力」「表現する力」を更に明確化し、育成する資質・能力を右図の通り決めました。

目指す教師像

生徒に共感し、創造性を引き出す教師 「今」を学び、成長し続ける教師

生徒一人ひとりに丁寧に寄り添い、共感的理解を大切にしながら主体性を重視した指導を行い、生徒がもつ創造性を引き出し、さらに高めていきます。また、教師自身が最先端で行われている教育の取組やその動向を注視し、新たな手法や考え方を自身の中に取り入れていく「学習者」としての姿勢をもち、生徒同様に成長し続ける存在となります。



スクールポリシー

◆入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)

- ・美術に対する興味・関心と基礎的な資質・能力を有し、その資質・能力を伸ばそうとする生徒
- ・自ら課題を見出し、他者と協働しながら粘り強く解決しようとする生徒
- ・将来、本校での学習を通して培った力を発揮し、様々な分野で社会に関わろうとする生徒

◆教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)

- ・将来の予測困難な社会において、「美」のもつ力、役割、可能性を深く幅広く学び、生徒の持つ創造への意欲の高揚につながる取組を実践する。
- ・京都の強みを活かした学校内外の様々なつながりの中での協働的な学びを実践する。
- ・表現活動の基盤となる幅広い教養や他者に伝える力を培い、創造的な発想力や思考力、判断力を養うため、教科・科目や専攻の境界を越えた横断的な学びを実践する。
- ・個人の個性と可能性に丁寧に寄り添い、自己目標の実現に向けた生徒の主体的な学びを支援する。

◆育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)

- ・柔軟に粘り強く挑戦し続けられる心を育み、作品制作や言語表現を中心とした多様な表現活動や他者との関わりの中で、新たな自分や価値を創造していく意欲と能力を有する。
- ・美術分野の専門性や汎用的な力を活用し、将来、文化芸術の創造・発展に寄与し、世界と対話的に関わっていく態度と能力を有する。

04: 施設概要 — 京都の文化芸術創造の新拠点として —

令和5年度、京都の玄関口・京都駅の東側に「新たな創造の庭」が完成します。

現校舎よりも約1,000㎡増となる新たな校舎は、専門的な実技を行う実習室の増設や、現校舎にはないマルチメディア実習室・3Dファブリケーション室といったデジタル技術を活用した現代アートへの挑戦が可能となる実習室を新設するなど、多彩なカリキュラムに対応しています。

2階のホームルーム教室や4階の実習室には、東山や鴨川を望むバルコニー等を設置し、創造性を引き出す開放的な空間をつくります。また、1階にはイベントの開催や生徒作品を展示することができるスペースを整備し、地域・市民の方や京都を訪れる方にも楽しんでいただける企画にも取り組みます。

京都芸大と隣接し、優れた設備が整った、充実した環境の中で、生徒の創造力は無限大に！「文化芸術都市・京都」の新たなシンボルゾーンで、次代を担う青年を育成します。

完成予想イメージ

付近見取図



校舎全体イメージ

主な施設配置・施設概要



北面からの各部屋



東面2F ホームルーム教室前バルコニー



北面 1階多目的ホール

地区 (名称)	京都駅側の地区 (C地区)	中間の地区 (B地区)	鴨川沿いの地区 (A地区)	
	種別	種別	種別	種別
種別	京都芸大	京都芸大	京都芸大	市立美工高
敷地面積(㎡)	約15,900	約6,000	約12,700	
延床面積(㎡)	約48,700	約10,000	約9,300	約9,100
	合計：約77,100			
階数	地上7階 地下1階	地上5階	地上3階	地上4階
構造	鉄骨鉄筋 コンクリート造 一部鉄骨造	鉄骨鉄筋 コンクリート造 一部鉄骨造	鉄骨鉄筋 コンクリート造 一部鉄骨造	鉄筋 コンクリート造 一部鉄骨造